

## 令和元年度第1回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会の開催結果について（概要）

第1回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会を開催し、国有林材の供給調整の必要性等についてのご意見を頂きました。

### 1 日時及び場所

令和元年6月13日（木）  
近畿中国森林管理局4階第3会議室

### 2 議題

- (1) 近畿中国局管内の木材需給動向について
- (2) 国有林材供給調整の必要性について
- (3) その他

### 3 議事概要

#### 《検討結果》

住宅関係では、近畿圏の4月新設住宅着工戸数が前年比で2ヵ月ぶりに減少した。利用関係別では、分譲マンションが大幅に減少したことにより、分譲住宅全体が2ヵ月ぶりに減少した。持家は9ヵ月連続で増加している。一方、貸家は3ヵ月連続で減少となり、低調に推移している。

合板関係では、プレカット工場向けの需要は堅調で、相場は保合で推移している。また、大分県内の合板工場が稼働を始めたことから、今後の需給バランスに注視していく必要がある。

チップ関係では、岡山県で木質バイオマス発電所の新規稼働を始め、今年は山口や広島など数ヵ所で新規稼働が予定されている。既存発電所向けの燃料は全般に順調に集荷されているが、新規発電所向けの燃料は在庫が過剰となり、需給は一時的に緩んでいる。また、山口県で木質バイオマス発電所の新規稼働後は、未利用材を中心に需給バランスに変化が生じるとの懸念もある。

原木関係では、天候が安定していたことから例年より出材量は増加し、製材用・ラミナ用・合板用の全てにおいて飽和感が出ており、価格は弱含みで推移している。

以上、現在の木材需給動向について検討した結果、国有林材の供給調整の必要性は認められない。

## 〈主な情報、意見等について〉

### ○国産材の需給動向

- ・和歌山県内のプレカット工場では、柱取り丸太の在庫が徐々に減少し、原木市場でも柱取り丸太が少ない状況にある。
- ・京都府内で来年4月に稼働予定の木質バイオマス発電所では、未利用材の集材を開始した。
- ・奈良県内の原木市場では、天候が安定していたことから例年より出材量は増加し、製材用・ラミナ用・合板用の全てにおいて飽和感が出ている。6月以降は、梅雨や長雨と伐り旬が悪くなるため、9月まで出材量は低位安定すると見られる。並材の価格は、スギ・ヒノキともに弱含みで推移し、6月以降も値下げ基調が予想される。下級材は、バイオマス需要で安定している

### ○その他

- ・岡山県から韓国・中国向けの木材製品の輸出が堅調に推移している。
- ・岡山県では、県独自のおかやま森づくり県民税を活用して、認証された森林から出材される木材を対象とした住宅助成制度を新たに加えて、住宅への支援策を強化している。
- ・和歌山県では、外構部の木質化対策支援事業について、工務店からの引き合いが多くなっている。
- ・和歌山県では、伐採現場において、安全を見て4m材に造材することが多いことから3m材が減少傾向にある。
- ・6月以降は、製材・合板用材の伐採は控えて、昨年受けた災害の復旧作業や、これからの台風シーズンに備えた屋敷林の処理作業等に人員が回るため、チップの出材比率が高まると見られる。
- ・大手ビルダー等は3月までの受注を相当積み上げており、受注残を抱えている。施工能力自体は増やせないなので、急激な増減はない状況が続くと見られる。
- ・WウッドやRウッドの欧州材の値下げ基調により、8月（7月の現地積み）から年末にかけて、国産材に対する値下げの影響が懸念される。